

令和2年度 学校自己評価表（計画段階・**実施段階**）

80

福岡県立朝倉高等学校長 印

学校運営計画（4月）				評価（3月）		
学校運営方針		校訓「聡明・自立・敬愛」を拠り所とし、一人一人が自己実現を果たすとともに、国家・社会の発展に寄与する人材をを育成する。				
昨年度の成果と課題		重点目標	具体的目標			
「聡明・自立・敬愛」の校訓のもと、本校独自の「朝倉I・Cプログラム」を掲げ、生徒の高い知性と豊かな人間性を身につけさせることに取り組んできた。体育祭やからたち祭（文化祭）などの学校行事などにおいて素晴らしい成長を遂げた。確かな学力の習得については、ICT教育機器を活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に積極的に取り組み、また、目標に準拠した多面的評価を行うなど評価方法の改善を図った。しかし、まだまだ十分とは言えず、国公立大学に現役62名しか合格することが出来ない現状を踏まえ、授業改善、キャリア教育の改善など第1希望進路実現への指導が今後の課題である。		1 自己実現に必要な知識・技能の習得と思考力判断力・表現力等の育成を実現する学習指導	ア ICT機器を活用しながら。「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を更に推進する。また、目標に準拠した多面的評価を行うなど評価方法の改善を図る。	A		
		イ 生徒の学習意欲向上に向けて、ハード面・ソフト面の改善を図る。				
		2 将来の夢や志を育み、その実現を目指すキャリア教育の実践	ア 夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成するとともに、希望進路実現のために必要な資質・能力を高める。			
		イ 難関大学進学をはじめ多様な進路実現に応じた計画的、継続的、組織的指導体制を確立する。				
		3 規律と責任を重んじ、自主性や主体性を涵養する生徒指導	ア 基本的生活習慣の確立とともに公共マナー等の指導を徹底する。			
イ 学校行事、部活動、生徒会活動などあらゆる機会をとおして生徒の自己指導能力を高めるとともに自主性、主体性、チャレンジ精神を培う						
4 人としての資質・能力を高め、人生や社会に生かす学びの実現	ア 「朝倉I・Cプログラム」を、人としての資質・能力を高める教育活動として包括的にとらえる。また、カリキュラムマネジメントの効果的な実践を図る。	A				
イ 「朝倉未来塾」など校外外で行われる研修・発表会等への積極的な参加を促す。						
5 学校の教育活動を積極的に改善し、社会の変化に対応できる学校の実現	ア 学校の今日的課題を発見し、迅速かつ積極的に改善を図る。	A				
イ 課題解決に向けた、効果的・効率的な組織の構築と運営を行う。						
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
教務部	授業の質の向上と指導方法の改善	ガイダンス機能とキャリア教育の充実および学びの方向性の明確化	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育についてはコース選択説明会や進路学習を通してさらに充実させる。学習習慣の確立を目指した取組を強化する。</li> <li>・授業については各教科の特質に応じた工夫がなされている。知識・技能に加えて、「思考力・判断力・表現力を活用して解く」新傾向問題に対応できる実力養成を目指した授業を計画実践していく。</li> <li>・課題解決学習を中心としたI・Cアワーの構築については、当初の計画を修正しながら課題研究を中心とした取組が実施できた。今年度の反省をもとに次年度の計画に反映させる。</li> </ul>	
		「新たな学び」の構築と新たな評価方法を軸とした授業改善	A			
		思考力・判断力及び表現力を問う考查問題の作成	A			
	高大接続改革と新学習指導要領の実施にむけたカリキュラム・マネジメント	大学入学共通テストに向けた授業強化	B	B		
		コース編成の在り方の検討	A			
		新学習指導要領実施に向けた検討	B			
	朝倉I・Cプログラムの推進と地域・中学校との連携の強化	課題解決学習を中心としたI・Cアワーの構築	A	A		
		郷土、社会との関わりを深める内容の充実と地域の教育資源の活用	B			
		学校説明会等への積極的な参加と内容の充実による生徒募集の強化	A			
	総務広報課	「中学生が受検したい高校」となるよう、効果的な広報戦略を企画し受検生増を目指す。	学校案内の紙面刷新、「朝高ニュース」の充実・学校掲示板の活用による効果的な広報を行う。	A		A
			ホームページの更新を適宜行い、最新の情報が中学生に分かりやすく伝わるようにする。	A		
			小郡地区対象の学校説明会、第7学区進路相談事業の内容を充実させる。	B		
PTA、同窓会、後援会との連携を充実させ、本校全体の教育活動効果を高める。		学友区懇談会を効果的かつ負担なく実施するために、PTA学友区委員と連携し実施方法等を改善する。	A	A		
		定例のPTA役員会や各種委員会・運営委員会の開催等に関する早めの調整を進める。	A			
		PTA関係者や後援会関係者等と意志の疎通を図り、必要に応じて諸行事の内容を改訂する。	A			
学校行事等の企画立案を早めに進め、各分掌や学年の担当が細部を吟味できるようにする。		月別行事予定を早めに作成、提示する。	A	A		
		各行事や儀式の企画立案を早期に行い、各セクションの担当者が十分に検討できるようにする。	A			
		ICT活用推進委員会と連携しながらICT関係機器の円滑な運用・維持を目指す。	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		
教務部	研修課	主体的・対話的で深い学びの創造	年2回の授業アンケートの実施・分析	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にある中でもICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びを目指した取組みが実施できた。3年目となる『福岡県新たな学びプロジェクト』研究実践校としてのオンライン発表会は満足できる結果であった。</li> <li>・新学習指導要領への対応についての研修や教育実習受け入れは、柔軟に対応しながら実施できた。</li> <li>・校外研修はほとんどが中止となったが、オンライン形式に移行したのもあった。新たな研修形態への対応と参加促進が今後の課題である。</li> </ul>
			ループリックを活用した研究授業・教科別研修会の開催	B		
			公開授業・実践発表会の開催	A		
		校内研修の充実	いじめ・自殺予防・特別支援教育についての研修会の開催	/	A	
			研修紀要寄稿者の拡大と内容の充実	B		
			教育実習の充実	A		
		生徒向け研修の充実と外部研修参加の啓発	主権者教育・消費者教育・租税教育の研修会開催	A	A	
			新たな人権課題に対応できる知的理解と人権感覚を育成する人権教育の推進	A		
			外部研修情報の伝達と参加促進の啓発	B		
生徒育成部	生徒育成課	基本的生活習慣の育成およびマナーの向上	大きな声での挨拶を基本とし、他の基本的生活習慣も定着した生徒の育成を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣やマナーの向上については、日々指導に尽きる。次年度も継続し指導していく。</li> <li>・生徒会活動・部活動および学校行事の活性化については、今年度新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から多くの行事・試合等が中止となるなか、生徒達は最大限の努力を行ったと考えている。次年度以降、本年度中止となった行事等の、伝統を継承していきたい。</li> <li>・安全意識の向上については、本年度大きな問題は起こらなかったが、これに甘えず、今後も継続し生徒に注意喚起していきたい。</li> </ul>
			他者への配慮を行うことができ、地域に信頼される生徒の育成を図る。	A		
			いじめがなく、いじめを許さない生徒の育成を図る。	A		
		生徒会活動・部活動および学校行事の活性化	校内外の様々な活動をとおして、自己指導能力の育成を図る。	A	A	
			生徒会活動をとおして自主的・主体的に行動できる生徒の育成を図る。	A		
			部活動をとおして規範意識とチャレンジ精神を培う。	A		
		安全意識の向上	交通安全意識の向上を図る。	A	A	
			インターネット上の危機管理意識の向上を図る。	A		
			日常生活に潜む危険への危機管理意識の向上を図る。	A		
	保健課	心身における健康の保持・増進	自分自身の健康状態を把握し、自主的に心身の健康を管理する能力の向上を図る。	A	A	
			スクールカウンセラーによる相談活動を年間15回に増やし、積極的に活用させて支援する。	A		
			毎月発行の保健だよりや啓発・推進の掲示物を充実させ、タイムリーな情報を発信する。	B		
		自主的・自発的な清掃活動と美化意識の啓発	望ましい学習環境づくりのために、生徒・職員が意欲的に協働して清掃活動に取り組む。	A	A	
			厚生局委員会活動を活性化し、日常的な清掃活動の徹底やゴミの減量化を実現する。	B		
			美化強化週間（コンクールを含む）を年2回設定し、校内美化の意識の涵養を図る。	A		
生徒支援体制の充実		教育相談委員会を充実させ、情報を共有し、問題を抱えた生徒の具体的な支援方法を検討する。	A	A		
		年度始めに情報交換会を2回実施し、共通認識のもと教育活動ができる体制をつくる。	A			
		特別な支援が必要な生徒は、各学年を通じて実態把握をし、個に応じた支援が出来るようにする。	B			
進路指導部	進路指導課	最終学年での国公立大現役合格者数80名を目標とした指導体制の確立	系統立てた進路学習を行い、外部模試等のデータを活用することにより、教科指導及び担任の指導に生かす。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外授業・朝高セミナー等を計画的に実施し、一定の成果が上げられている。しかし、さらに高い志を持たせ学習意欲を向上させていく必要がある。また、低学力層の学力向上の方策を検討する。</li> <li>・大学入試制度改革に伴い、学校推薦型・総合型選抜の活用を図ってきたが、本年度の結果を分析し、より効果的な活用を検討する。</li> <li>・コロナ禍におけるキャリア教育の在り方の工夫が必要である。</li> </ul>
			課外授業、朝高セミナー、ハイレベル講座を生徒の実態やコースの特性に応じて効果的に実施し、生徒の学習意欲と学力を向上させる。	B		
			総合型・学校推薦型選抜を適切に活用する。また、面接・小論文等の指導を組織的に行う。	A		
		キャリア教育の充実	大学別説明会、オープンキャンパス、職業体験に参加する機会を設ける。	B	A	
			生徒の興味関心と関連・派生させた学問及び職業研究を企画実施する。	A		
			表現力を育成し、説得力のある小論文を書く力をつけるため、系統立てた小論文の指導を行う。	A		
		読書活動の充実	図書館オリエンテーションや朝読書に関連づけた広報活動等を行うことにより、図書館利用者を増やす。	B	B	
			ビブリオバトルの運営等生徒図書局委員の仕事の充実を図る。	B		
			生徒・職員の購入希望図書について選書検討を行い、蔵書の充実を図る。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
第1学年	基本的な生活習慣の定着	皆勤達成率60%を目指す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍によって例年通りの初期指導ができなかったが、動画でガイダンスを実施するなどして共通認識をもって指導することができた。学校再開後に適応に苦勞する生徒の対応を今後も続けていきたい。</li> <li>・生徒の提案によって学年クラスマッチを行ったり、コロナ対策を生徒主体で考えさせたりして主体的に活動させることができたが、不徹底な部分は継続して指導していきたい。</li> <li>・ハイレベル講座の志望者も多く、課題探究活動でも生徒の主体的な活動が見られた。進路学習も計画通り行えたが、次年度のオープンキャンパスなどをどのように充実させるかが課題である。</li> </ul>
		挨拶・掃除・服装指導を徹底する。	B		
		部活動加入率90%以上を目指す。	A		
	基礎学力の定着	学習習慣確立のためにガイダンス・面談を実施する。	B	B	
		新しい学力観に応じた企画を実施する。	A		
		考查ごとに教科間で情報共有を推進する。	B		
	進路意識の涵養	ハイレベル講座を実施し、難関大を目指させる指導を行う。	A	A	
		探究の時間や朝読書の徹底を通して表現力を育成する。	A		
		校内外の様々な研修を積極的に案内し、参加するよう促す。	B		
第2学年	学力の充実	学期に2回以上の面談を実施し、進路指導を徹底した上で、明確な目標に向かって計画を立てさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、不安を抱える生徒や保護者が多い中、面談等の機会を多く持つことができた点は良かった。</li> <li>・オープンキャンパスが、オンラインでしか実施されず、生徒自身の目で実際に大学を見る機会が持てなかったこともあり、進路目標が明確でない生徒が多い。今後の指導が課題である。</li> <li>・修学旅行の中止を始め、対外的な活動が全くできなかった。それでも、生徒会を中心に、学校行事を充実させようと、リーダーシップを見せる生徒も出てきた。来年度は、最終学年であるという自覚を持たせ、もっと積極的に活動させたい。</li> </ul>
		週単位で課題を出し、予習復習をして授業に臨ませる。	A		
		各教科で偏差値70を越える生徒3名以上となるよう個別指導を行う。補講等でも、手厚い指導を心掛ける。	B		
	リーダーシップ・フォロワーシップの養成	生徒会を中心に、学校行事等を生徒自身が企画運営できる機会を増やし主体的に考えさせる。	B	B	
		修学旅行に向けてグループ毎に計画を立て協力し合うと同時に、自分の役割に責任を持つ姿勢を育成する。	B		
		生徒情報を共有し、学年団全員で生徒指導に当たる。	A		
	教養人としての志の育成	時間厳守、挨拶や掃除の励行等、規律ある学校生活を身につけさせる。	A	A	
		社会問題、時事問題に関心を持たせ、自分の意見を発表させる場を設定する。	A		
		視野を広げるために、校外で行われている活動にも積極的に参加させる。	B		
第3学年	学力の定着	日頃の授業に集中させると同時に、課外等にも主体的・継続的に取り組ませる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早い段階で学力の状況を把握し、生徒一人一人に応じた個別指導を実施していく。</li> <li>・課題解決学習を計画的に行い、論理的思考力・プレゼンテーション能力の育成を図る。また、外部（行政機関等）の企画にも応募できるように内容を事前に調査し取り組ませる。</li> <li>・リーダー育成のための校外活動等に積極的に参加させる。</li> </ul>
		個に応じた声掛け等を行い、教科で個別対策を行う。（上位層にはハイレベルな個人指導、下位層には予習復習等の内容確認）	A		
		学習の記録を活用しながら生活のリズムを安定させ、家庭学習時間を確保させる。（週30時間）	A		
	進路実現	国公立大学80名以上、難関大学5名以上を目標に指導する。	B	A	
		教員団が団結し、常に情報を共有しながら早い段階で面談等を行い、生徒の進路先を明確にする。	A		
		学年全体で受験を乗り切るため、タイミングをみながら集会等で生徒のモチベーションを上げる。	A		
	社会人基礎力（アクション・シンキング・チームワーク）の定着	学校生活・校外活動を通じて、主体的に物事に挑戦する力を育成する。	A	A	
		総学や小論指導を通じて、理論的思考力・プレゼンテーション能力を育成する。	A		
		学校行事を通じて、多様な仲間とともに目標に向けて協働する力を育成する。	A		